

# 広がる「記憶の銀行」

お年寄りへのインタビュー、ウェブ上に保管

## 大戦・復興：人生を後世へ

お年寄りへのインタビューをビデオに収めてウェブサイトで公開する。第2次世界大戦中のファシズムとレジスタンス、その後の復興や繁栄をくぐり抜けてきた先人の体験を、貴重な財産として後世に残そうと、イタリア北部トリノの4人がオンラインアーカイブ「記憶の銀行」を立ち上げた。徐々に関心が集まり、その輪は世界に広がっている。

(トリノ＝南島信也)

「何でも自由に話してくれたさいね」。ビデオカメラを構えた「記憶の銀行」のバイオさん(28)が促すと、老人は語り始めた。

トリノ市のフマガツリさん(88)。高校卒業直後に20歳で徴兵され、空軍中尉としてギリシャのアテネに送られた。当時のイタリアはファシスト

党を率いるムソリーニの独裁政権下。日独と軍事同盟を結び、第2次大戦の戦火が激しさを増していたころだ。「イタリア軍は世界一だと信じ込まされていた。でもア

テネに行ったら、戦闘機や武器もなくね。ファシスト党のプロパガンダだったんだ」。当時の日記や、徴兵通知を示しながら記憶をたどる。43年にムソリーニが失脚、新政

権が連合国軍と休戦協定を結んだ。「イタリア軍は大混乱だったよ。降伏したのか、誰と戦うのか、どうすればいいのか分からなかったんだ」。3国軍事同盟が破棄され、

### 学校での活用も計画

「記憶の銀行」は、トリノ近郊出身で幼なじみだったノバリオさん(35)、ニコラさん(36)、フェノリオさん(34)、バイオさんが立ち上げたNPO「メモロ」が運営する。

「メモロ」はエスペラント語で「記憶」の意味だ。きっかけは07年8月、ノバリオさんとフェノリオさんがベトナムに旅行した時のことだった。互いの仕事や将来についてじっくり話し合った。

「これまで自分たちは何かいいことをしたか」「自分たちの人生に、どういう価値があるのか」アイデアがわき出した。お年寄りにインタビューし、ビデオで記録する。遠い過去のものとなったお年寄りの記憶を、将来のために残しておくというものだった。核家族化が進む中、お年寄りの記憶の映像を子供たちに残すことで、家族のあり方を再構築したいという思いもあった。

「妻と知り合ったころは貧しくてね。食事に誘えないかも加わり、1年間の準備期間を経て、08年6月に活動を開始。戦争の記憶を持つ1940年以前に生まれた人を対象とすることに決めた。インタビュー、ビデオ編集、ウェブサイト開設、スポンサー探し。4人で役割分担したが追いつかず、ノバリオさんとバイオさんは仕事を辞めた。

初インタビューはバイオさんの父マリオさん(77)。農家で貧しかった子供のころ、小学校の授業で受けたファシズム教育……。祖父母を幼い頃に亡くしたバイオさんにとって、これまで知らなかった父の姿だった。

当初は家族や親類に取材相手を紹介してもらっていたが、地元メディアに取り上げられると「私の話も聞いて」と希望者が殺到した。約500人にインタビューし、1本5分に編集したビデオをウェブ

サイトにも千本公開した。未編集のビデオも千本ある。サイトには、登場したお年寄りの家族らを中心に100万回以上のアクセスがあるという。71本の「記憶」をまとめた本とDVD「私は思い出す」を、大手出版社から出した。こうした販売収入や企業からの広告料、寄付が主な収入源だ。今後、学校でビデオを見せて歴史の授業に役立ててもらいたい、行政から補助金を受けられることも計画している。

「ファーストキスはいつ？」。バイオさんが尋ねると、照れながら「昔は手を握るのにも何カ月もかかった。キスは茂みの陰だったよ」。

1回のインタビューは長い時は3時間にも及ぶ。第2次大戦中の苦しみや悲しみの話が多いが、生きるために新天地を求め、外国に移住として渡った家族のことや、戦後の経済復興の話も出るとい

「1本の「記憶」をまとめた本とDVD「私は思い出す」を、大手出版社から出した。こうした販売収入や企業からの広告料、寄付が主な収入源だ。今後、学校でビデオを見せて歴史の授業に役立ててもらいたい、行政から補助金を受けられることも計画している。



①第2次大戦中の日記を見せながらインタビューに答えるフマガツリさん。左はバイオさん、トリノ市内  
②「記憶の銀行」を始めた4人。左からフェノリオさん、バイオさん、ニコラさん、ノバリオさん、トリノ市郊外、いずれも南島信也

### 欧米に続き日本でも

「メモロ」の活動に賛同する人々の輪は世界中に広がっている。ドイツ、フランス、スペイン、アルゼンチン、米国でも、「メモロ」の支援で同様の取り組みが始まった。英国やカナダ、ブラジルなど10カ国でも準備中だ。日本でも東京在住のイタリア人女性ドルチーニさんが中心になり近く準備を始める。

「メモロ」のホームページは<http://www.memoro.org/>(英語)。日本語サイトも近く開設される予定という。